

月報 岡崎の教育

8月号

平成元年8月1日

編集/発行

岡崎市教育委員会

小さな手に御飯を山盛り盛り付けて
三角にならないおにぎりと
やんわり格闘する子供たち

モーターの音に身を引き締めながら
初めて手にする糸ノコで
おつかなびつくり切り抜く子供たち

模造紙九枚の広さに驚きながら
太古の世界を再現せんと
体ごと筆を動かす子供たち

東っ子よ
下手でもいい
失敗したっていい
できないとあきらめてはいけない

勇気と知恵とをもって
創造の世界へと

敢然と挑戦してみるがいい
楽しい夢は確かに君に近づいてくる

〈オープンタイム〉



(東っ子の集い「大きな絵をかこう」-常東小)

かく紫陽花が、つゆ晴れの朝日に映える床の間の書を、いま、私はじっとみつめていた。

超然として天に任せ
 飄然として人に接し
 悠然として道を楽しみ
 発然として自ら粛しみ
 寂然として節を持ち
 泰然として難に處す



この六然の訓は、恩師荻野謙堂先生八十四歳のお作である。

紙に食い入るような力強い用筆や、端然とした文字のたたままいなど、まったく先生のお人柄とそっくりである。

私が先生に教えを受けたのは、小学校の五、六年の二年間であった。竹を割ったような性格や、温か味を秘めた厳しき、質朴でとりわけ勉強家だった先生は

村民 同の畏敬のまゝであった。

先生の篤学については何時も思い出すことがある。まだ一般には電灯のなかった先生の子供の時代、読書は太陽のあかりが大きな頼りであった。先生は日の動きを追っては所をかえ、はては二階の屋根に上り、日の沈むを待って下りられた話、また、ほやのない石油ランプの下での勉強で、煤ばんだ汗の顔をぬぐい、黒ずんだ異様な顔に、明朝、家族一同びつ

— 教育随想 —

思い出の師

神谷葵水

い筆で識させていたのだ。

先生は、『福釜の里』（十巻）や雄山閣刊行の『書道新講』などの著のあることでも分かるように学究肌であり、すぐれた郷土史家であられた。

先生の得意な授業はとくに「国史」と「習字」であった。国史（歴史）の時間になると先生の眼は光り輝いた。時には感激のあまり涙ぐまれることもしばしばであった。そんな情熱家の先生も、習字の時間になると水を打ったような静かさに返った。左手に硯、右手にチビた朱筆を持って、背後からささやくように添削して廻られた。日頃の厳しい先生とは打って変り、拙い私の文字にも時には丸を頂き、ある時など、大きな三重の丸をもらったこともある。

今日の私が、筆一筋に生きるようになった機縁も、思えば先生との得がたい出会いと、私の文字に丸を奮発して下さったやさしいはげましのお陰と心から感謝している。

六然訓を書いて頂いた時、先生は、この中の一つでもよい、実行のできる人となれ、と諭された。

超然として天に任せ——などと言った高い心境などほど遠いとしても、せめて飄然として人に接し、悠然として道を楽しむことのできるようにはつとめたい、と今朝も先生の書前で見じみと感じたことであった。

（岡崎市文化協会会長）

受容する

特殊教育指導員

野村正文



先日、作業学習の時であった。友達とけんかしたのか、ぶつぶつ言いながら歩いてくるK君。花壇のなかもおかまいなしである。その時、右手にふと触れた真つ赤に咲いていたサルビアをひっこ抜いてしまった。

「K、もどおりになおしておけよ。」
 と、注意され、
 「はっ。」

と、息をのみ込み、われに返ったK君。
 「先生、ポンドでくつつく。」
 「どうかなあ。くつつくと思えばやつてみれば。」

ポンドをつけ、荦のところを砂を盛りあげ、なんとか倒れないようにする。
 「先生。なおったよ。見に来てよ。」
 二人で見にいくと、無残にも風で倒れている。

「もどおりにはならないなあ。どうしよう。」
 困り果てたKくん。

ふるさとシリーズ

この人に聞く



細川流盆石

寺尾敏枝氏

黒の漆塗りの盆の上に石を置き、白砂で風景を描き出す盆石は、見る者を静寂と幽玄の世界へ誘い込むようである。その盆石に心を引かれ、二十年以上も打ち込んでいらっしやるのが、中町に住んでおられる寺尾敏枝さんである。

寺尾さんは、昭和四十二年豊坂小学校を最後に教職を退かれ、それとほぼ時を同じくして盆石を始められた。現在は、お弟子さんを三十人も抱える細川流盆石の先生として毎日をお過ごしである。

盆石との出会いをお尋ねすると、「学校をやめた頃、お寺さんの、『岡崎には家元直系でやっている人はいない。』

人がやってないことならば、上手か下手か分からないから自信をもってやる。やってみなさい。」という誘いの言葉に乗ってしまいましたね。」

と。やりたいことは数多くあったが、盆石一つに絞って続けてこられたという。

「盆石をやっておりますと、禅の道とながっているような気がします。座禅を組むと頭が何も考えない空白の状態になります。盆石はそれと同じ。没頭しないとできないんです。」

ストレス解消にはとてもよいそうです。元々茶室の床飾りとして茶道と共に発達してきたものだけに、茶道のお点前のように道具を運ぶことから始まると言われる。さらに、「盆石の石は精神修養の目標である」とのこと。禅と通じるのも道理である。

また、寺尾さんがお弟子さんたちについて言われるのは、

「『和』の一字になって下さい。」

ということ。宿題としたテーマについて家中で調べたり考えたりしてもらえ、家族が一つの和になって頂けたこともあると、本当にうれしそうに話してください。

部屋いっぱい飾ってくださったたくさんのお作品の中で、先生が一番好きな作品をお伺いすると、

「砥石画の竹やぶです。とても苦勞しましたから。遠近感や雪にしよう竹など、八王寺の方まで何度も見に行きました。」

と言われる。盆石の実物を見るのは初めてという私

たちのために、実際に波や松を打って見せてくださった。白鳥の羽で軽く砂をはくと、瞬く間に白い砂が、打ち寄せる波や川の流れにと変身していく。小さな匙で落とした砂は、見事な枝振りの松に。先生をこれほどまでに盆石に打ち込ませたものは、何だったのだろうか。

「教え子たちと約束したからです。盆石を始めたいけれど、みんなのお手本になるよう、くじけないで最後までやり抜くから、みんなも頑張ってください。教壇の上だけの先生ではだめだと思っんです。社会に出てからも、先生頑張ってるなと子供たちに思われなくては。」

生年月日 大正十四年四月二十六日
住所 岡崎市中町三一―一三



……しつづけではない。訓練でもない。事の善悪を指導することも大切であろうが、それ以上にK君との「心と心」のふれあう実感こそが、心を成長させていく糧となるのではないだろうか。

手がむずむずしてきたよ

図工美術科指導員

長坂 正延

先生がいろいろな話をしてくれた。「先生でもできるんだから、みんなにもっといいのができるよ。」と先生がいった。わたしもできるぞと思ったら、手がむずむずしてきました。「作ったいよ。」といったのでびつくようにして作り出しました。

崇代さんは五年生。土粘土を使っでの彫塑の授業。前の週の授業を終えた感想をこう書いた。

・手がむずむずしたこと。
・とびつくように作り出したこと。

授業のスタートはこうでなくてはならない。難しい説明は抜きといきたい。いかにしたら、子供たち全員の製作意欲を崇代さんのように最高に高められるか。事前の十分な研究に裏づけられた指導がS先生の授業にはあった。

「自信ないけど先生も作ったよ。」

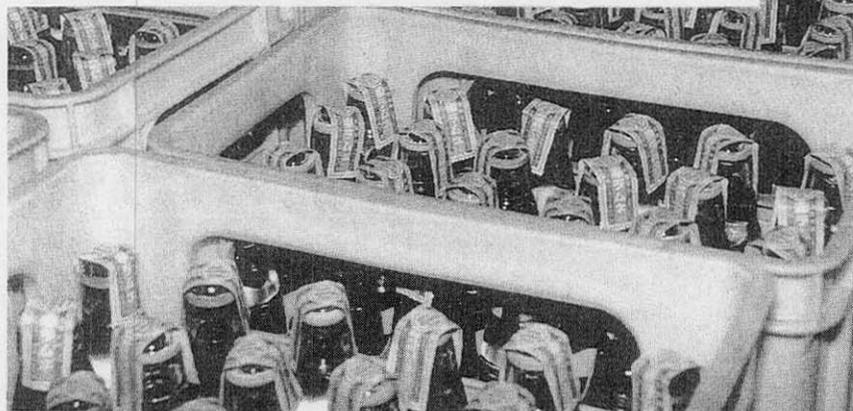
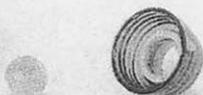
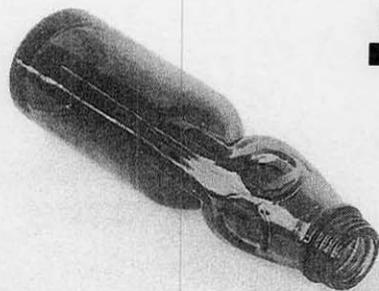
クラス全員の子の目が一点に注がれる。一週間後の本時も目を輝かせての製作が続いたのはいうまでもない。

絵が嫌い、粘土が嫌い。本来そんな子はひとりもない。いるはずがない。

ラムネ



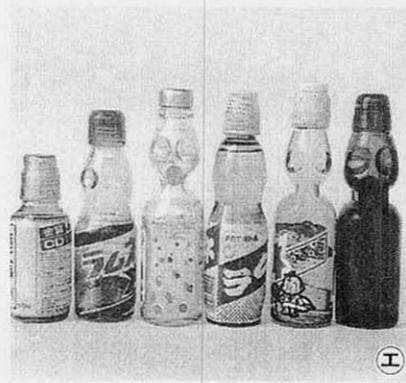
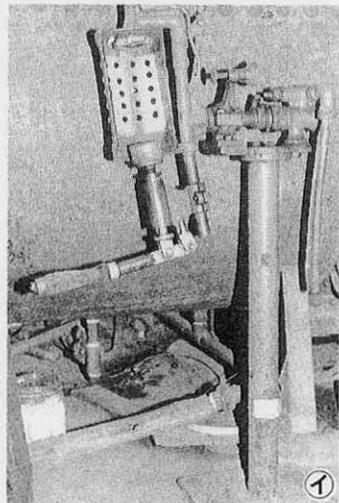
⑥2

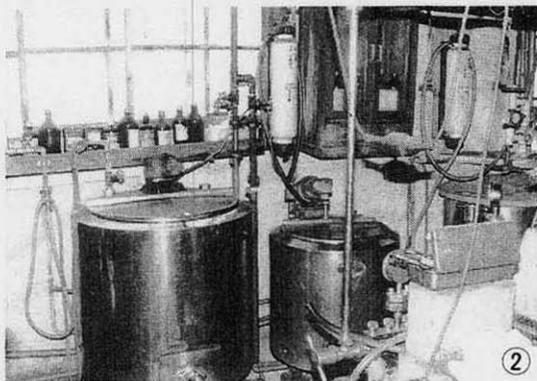


栓をびんの口に差し込む。上から力い
つばい一気に入たく。「ポーン」小気味
よい音とともにラムネ玉が落ちる。シェ
ーと飛び散る泡。ころがるラムネ玉がカ
ラコロ、と音をたてる。

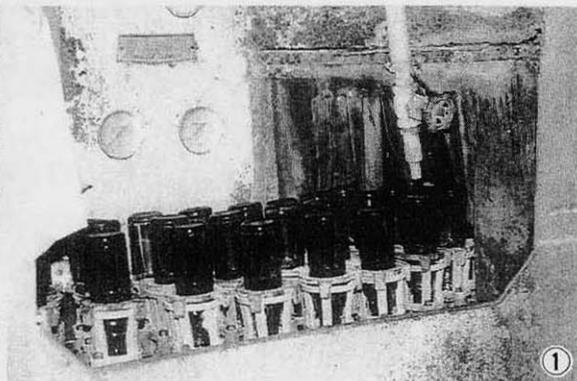
郷愁、懐古を抱かせる飲み物である。
子供や若者から見ると、独特なデザイン
のユニークな清涼飲料である。二十年く
らい前から外資系の炭酸飲料が出はじめ、
急激に生産が減ったが、近年は商店街や
スーパーの催し、夜店や、一部の観光地
等で見直されている。

ラムネのはじまりは、明治二十一年こ
ろ。神戸、横浜など居留外人から教わっ
て企業化され、次第に全国に広まってい
った。岡崎市内では、ラムネに欠かせな
い良質の水を、矢作川や菅生川に近い所
から地下水として得ることができた。現
在も二社が他の飲料製品に混じってラム
ネの生産をしている。

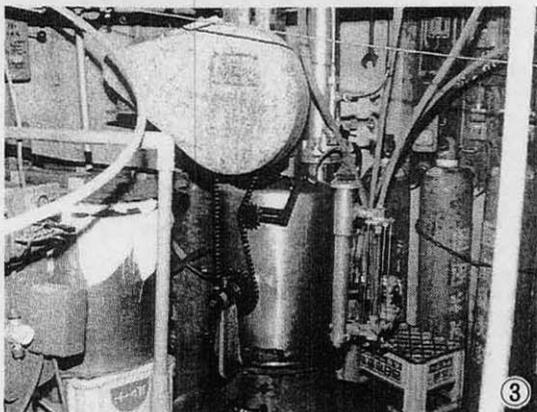




②

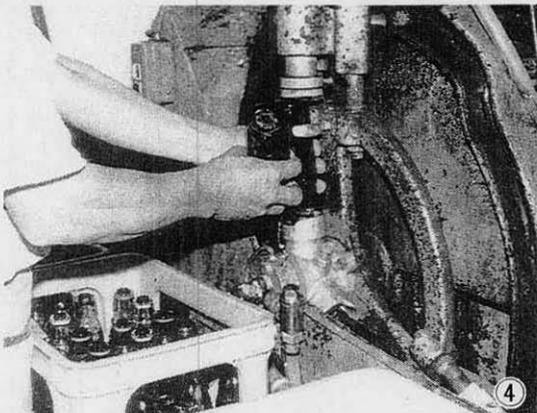


①



③

- ① 回収されてきた「びん」は次亜塩素酸ソーダの希釈液で洗浄され、移動式のころ台の上で、充填機に送られる。
- ② 充填機では、二つの系統で表のような原料を調合して蜜をつくる。
- ③ ガスボンベから液化炭酸ガスが送られる。
- ④ 充填機に手で空びんをはめ込む。びんが一回転する間に蜜とガスが詰められ、ガスの圧力で玉がびんの口にもち上がって密閉される。
- ⑤ 詰められたびんの中に、異物が入っていないか検査する。
- ⑥ びんの口部に樹脂製の栓が入ったビニルキャップをはめ、電熱で封じる。注文に応じて、昔ながらの紙製の封をすることもある。



④

原 料	配合量
砂 糖	20kg
クエン酸ナトリウム	80 g
リン ゴ 酸	60 g
食 塩	20 g
レモンライム G L	200ml

180ℓ中の配合室

資料提供
矢作町
畔柳飲料工
業合資会社

- ㊦ 最盛期、昭和二十年代の原料品購入帳・経費記入帳・販売店瓶貸出簿
- ① 昭和三年創業当時の充填機
- ㊵ 右端は明治時代製。いずれも戦前のもので、人が口で吹いて作ったびん。
- ㊴ 右端がグリーン色のガラスびん。他はプラスチック製のびん。



⑤



⑥

教育日々



「算数、きらいだよ」

広幡小 杉江 美舟

「先生。あのね、わたし、算数きらいだよ。」

四月当初、私の机の横にやってきて、ぼそぼそと言うY子。そう素直に言うのはY子だけが、聞いてみると半数以上の子が算数きらい人間だった。何とかしなくっちゃ……。

これが、子供たちと私のスタートだった。五月に指導員訪問六月に研究会……。子供に力をつけたいと願いながら、教材研究をした。

「体積」の学習では、同じ大きさの紙を与え、自分が一番大きいと思う箱作りをさせ、その比べ方を考える学習。また、立方センチメートルの立方体を積んでいくことの学習。具体的な操作活動を多く取り入れること

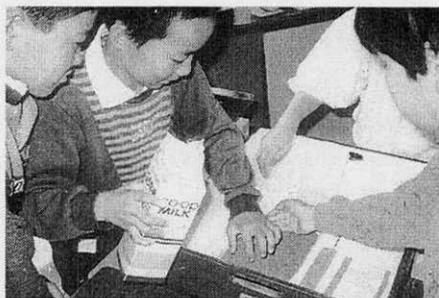
で、頭で学ぶ算数から脱け出し、体で学ぶ算数をねらった。

また、「単量あたり」の導入を教科書で見ると、じやがいもの重さが小数であることに抵抗を感じた。まるつきり新しい「単量あたり」を学ぶ時、小数のわり算で引掛かる子が大変。独自の単元導入を試みた。九月の山の学習とも関連させ、「カレーを作ろう」と題して授業を展開していった。初めは、全体量に目を向けていた子たちも、一人あたりの分量に着目し、正しく材料計算をすることができた。

子供たちと出会って三か月が過ぎた。何とか意欲を持ち、自己表出できる子になってほしいと願い、①単元導入に力を入れる ②子供の考えを大切にしながら学習過程にする ③既習事項を生かす ④批正の場を意図的に位置づける——、以上の四点を常に心掛けて授業に取り組んできた。

近頃は、子供の日記の中に、「きょうの算数は、算数じゃないみたいでおもしろかった。」などと、ぼつりぼつりと反応が見え始めている。しかし、Y子はまだ授業中、自己表出をしようとしない。私

の方を不安げに見ながら、挙手をためらっている。私は「焦るなY子」と、目でサインを送る。まだまだ始まったばかり。そして「焦るな」と、せっかちな自分に言い聞かす。



心が成長する時

南中 瀬戸 藤代

力強く投球しようとするY子のクラブがかすかに揺れ、目には涙がいつぱいたまっている。連続四死球がY子の投球動作を弱々しくしていく。左足の踏み込みと腕を振るリズムが完全に崩れたのである。何とアドバイスしたらよいか迷いながら、

とにかくタイムをとった。

「Y子、一球入魂だ。負けん気で投げろ。いくらフォアボールが出てもいい。後はみんなに任せて、思い切ったいけ。」再びマウンドに立ったY子は、チームメイトに励まされながら投球を続ける。けれども、ストライクは入らない。Y子はベンチをうかがうような動作をしてきた。もう自信を失って交代させてほしいのか、それとも……。彼女の様子を見ながら、私は、投手の控え選手であるI子を呼んだ。

「Y子は苦しくて仕方ない様子だけど、もしあなたがあのマウンドに立っているとしたら、交代させてほしいと思うだろうか。」

と、毎日ピッチング練習を一緒にしているI子に迫った。

「私だったら、今交代させられると、きつと後悔すると思います。最後まで投げ抜きたいと思っていますはずです。」

はつきりとした口調で答えるI子の態度には、自信が満ちあふれていた。ライバルであり、仲間でもある彼女の気持ちをくみ取れるまでに成長したI子は、頼もしく、大きく感じた。

その間に攻守交代となった。

がっくりと肩を落とし、仲間から励ましを受けるのがつらそうに、ブルペンで投球練習を始めていた。私は何も言わず、次の回もY子の肩にそっと触れながら送り出した。しかし、緊張した投球が、またもや四死球を与えてしまった。私は、思わず、I子の顔を見た。I子は、クラブを持って構えていた。

勢いよくマウンドに立ったI子は、闘志をむき出しに気合の入った投球をした。練習では得ることのできないY子への思いやり、協力と悔しさが陰の力となっている。I子への声援は、降板したY子が一番大きかったのである。





■岡崎市美術館特別展

「パレットと絵画にみる近代日本の洋画家たち」開催
梅原龍三郎はじめ七十名のパレットと絵画一四〇点を展示。

期日 八月九日(水)～二十七日(日) (八月曜日休館)

開館時間

午前十時～午後六時

ルールの徹底で交通安全

— 過半数を占める一旦停止違反 —

■平成元年度

交通事故発生件数

(七月二十日現在)

七月十五日現在 県下の交通事故死者数は二百七十名(北海道について第二位)であり、三十名も増加しています。本市の小中学生の交通事故発生件数も四十二件であり、十六件六十二%の大幅増となっています。

学年別では、小学校低・中学年の事故が全体の六十四%を占めています。原因別では、飛び出しの五十五%を初めとして、不注意による事故が目立っています。特に、自転車乗車中の事故が多発していることが本年の特徴でもあります。

基本的な交通ルール(道路の歩行・横断の仕方・自転車の乗り方など)を徹底し、児童・生徒の不注意による交通事故をなくし、残る夏休みを楽しむ、有意義に過ごさせたいものです。

平1	昭63	年度
10	7	4
12	10	5
10	6	6
10	3	7
42	26	計

・月別発生状況

平1	昭63	年度
5	4	小1
6	3	2
9	9	3
7	3	4
3	3	5
1	2	6
6	1	中1
3	1	2
2	0	3
2	0	計
42	26	

・学年別発生状況

・原因別発生状況

原	飛	横	接	出	自	計
4	12	2	10	0	2	26
1	23	6	9	2	2	42
昭63	平1					
12	1					

平成元年度夏季実技講習会

教科・領域	期日	会場	人数
書写	8.2	中央カルチャーホーム	56
算数・数学	8.2	南部市民センター	38
社会	8.2	岩津市民センター	58
理科	8.2	六ッ美北部小学校	67
音楽	8.3	梅園小学校	30
図工	7.31	世界子ども美術博物館	43
小学校家庭	8.3	婦人会館	30
技術・家庭	8.3	美川中学校	40
英語	8.2	六ッ美市民センター	51
特殊教育	8.2	京ヶ峰岡田病院	52
学校保健	8.2	健保会館	47
視聴覚(VTR)	8.2	連尺小学校	41
視聴覚(パソコン)	8.2	美川中学校	48
図書館	8.3	岩津市民センター	78
野外活動	8.2	市少年自然の家	54

心にくい込む感動の主張

第三回 岡崎市中学生の主張コンクール

七月八日(土)午後一時から

岡崎市せきれいホールで、岡崎

市中学生の主張コンクールが行

われた。各中学校代表十八名が

堂々と意見発表を行った。内容

は、人々との触れ合いから学ん

だもの、障害や困難を克服した

もの、海外生活をもとに日本人

のあり方を述べたものなど、中

学生らしい真摯なものだった。

成績は次のとおりである。

○優秀賞

竜海中三年 鳴戸 麻子

城北中三年 荻野 年世

常磐中三年 野村 優子

岩津中三年 神谷佐美

○奨励賞

甲山中三年 中嶋 晃代

美川中三年 小林美由起

南中三年 溝内 愛子

葵中三年 川合 瑞穂

福岡中二年 林 恵子

東海中三年 浅見友紀子

河合中一年 杉山沙登美

矢作中三年 村尾美保子

六ッ美中三年 柵木 純子

矢作北中三年 川澄 早苗

新香山中三年 城戸 健

竜南中三年 山下 佳美

北中三年 服部 慶子

附属中三年 中野 有紀

■平成元年度岡崎市教育研究論文の募集要項

○部門

第一部門 個人研究

第二部門 共同研究

○字数

四百字詰め原稿用紙(B4

判)三十枚以内。表・写真・

グラフ等は本文に含める。

○提出期日

中間報告 九月五日(土)

研究論文 十二月一日(火)

○提出先 市教委学校教育課

■県教育研究論文締め切り迫る

○字数

四百字詰め原稿用紙(B4

判)三十枚以内

○提出期日 八月二十四日(木)

○提出先

市教委学校教育課杉本主事

■平成元年度市教育委員会学校

訪問計画(二学期分)

○十月十二日(木)

秦梨小学校

○十月二十六日(木)

河合中学校

○十一月九日(木)

梅園幼稚園

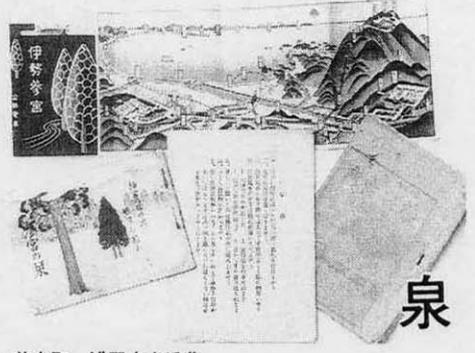
○十一月九日(木)

根石小学校

○十一月三十日(木)

南中学校

緑丘小学校
小豆坂小学校



美合町 浦野広光氏蔵

昭和9年の 修学旅行心得

子供にとつても、大人になつてからも、学校行事の中で一番の楽しみ、思い出は、修学旅行であろう。

「しおり」は、先生のガリ版印刷であった。「参宮のしをり」等も使われた。ここに紹介する資料は、昭和九年秦梨小学校の修学旅行しおりである。

当時は、二泊三日で名古屋市内の大須観音・動物園・名古屋城などを見学の後、宇治山田駅前泊。外宮・内宮参拝後、朝熊山を経て二見浦泊、鳥羽を見学して帰りに熱田神宮を参拝する

・表紙写真
・表紙詩
・カット

常東小 鈴木正純
常東小 宇野友啓
福岡中 野々山勝彦

費用は四円三十銭、小遣いは一円以下であった。心得の「規律ヲ厳守スルコト」の中で、「神城ハ勿論旅行中礼儀ヲ正シクシ卑シキ言語ヤ行爲ヲ慎シムベキコト」とある。服装のところでは、「洋服モ可」とあり、「袴ヲツケ男子ハ帽子ヲ被ルコト」や「日和下駄又ハ靴ヲ用スルコト」とある。新幹線を利用し、観光バスを連ねた社会見学の旅と比べると時代の違いをしみじみ感じさせる。

この本を

- 法則化批判
- * 文芸教育の立場から — 西郷竹彦 ¥1600
黎明書房
 - * 中国のはらわた — 連根藤 ¥850
はまの出版
 - * 現代の覚者たち — 森信三ほか ¥1200
竹井出版
 - * 遊び心派教師がいい — 多久龍太郎 ¥1500
太郎次郎社

教育は変えられるか(上・下) — 磯村尚徳著

日本放送出版協会 各¥1300
知識偏重の画一教育に対する反省が高まり、個性尊重の教育への脱皮を模索している日本。リベラルな教育から、知識教育へと移行する欧米。この皮肉なコントラストをどう考えたらよいのだろうか。世界は、モデルなき時代に入っている。本書は、日本が明治以来範としてきた欧米の教育改革の動きと、日本の新しい動きを対比させながら、グローバルな視野から、21世紀の日本の教育を考えさせてくれる格好の案内書である。

白粉の花落ち横に縦にかな 虚子
枝や葉の大きさに比べラッパ形のかわいらしいオシロイ花は、小さな子供を思わせる。子供にも、縦になったり横になったり、時には斜めや逆立ちする子もいる。個性を見極め、その子に適した言葉をかけてやりたい。大きなラッパの音を期待して。

オアシス

植物の茎を顕微鏡で観察した。師管と導管が織り成す造形は、神秘的で、自然のふしぎさを感じさせる。本来の意味とは違っただろうが、師の管に、導く管という名称は、成長を示唆しているようで、おもしろい。教師自身も、必要な栄養を送り子供の成長を支援する大切な管でありたいと思う。

アサガオの鉢が中庭に並んだのは五月中旬。その成長ぶりは、毎日世話をし続けてきた一年生の姿そのものである。夏休みは家庭で観察と世話とが続く。休み明け、真っ黒に日焼けし、ひとまわり大きくなった一年生が、実をいっぴいつけた「ほくのアサガオ」を再び持ち寄る日を楽しみに待ちたい。

西瓜赤き三角童女の胸隠る 節子
西瓜のふるさとは、遠くエジプト・西アジア地方だという。真っ赤に熟した西瓜をよく冷やしてかぶりつく。炎天下で渴き切ったのを通る、甘味のきいた水分たっぷり的一切れは、今では真夏の日本に欠かせない果物となっている。